

館長室だより ④

高みから後世へ

図書館長 江澤 聖子

ヴァイオリン協奏曲は、ピアノ協奏曲とはまた違ったオーケストラ全体との響きの融合が魅力のジャンルである。最近特に注目しているヴァイオリニストはヒラリー・ハーン (Hilary Hahn) とリサ・バティアシヴィリ (Lisa Batiashvili)。共に1979年生まれ、40代半ばの円熟した芸術家である。

ハーンはアメリカ出身、10歳で名門カーティス音楽院に入学し、20歳の時には既に『神童』から見事に脱皮したアーティストとして名高い存在であった。彼女の芸術の代名詞ともいえるJ.S.バッハの《無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ》は、美しい旋律の背後に広がる豊かな和声と、聴く者が思わず頭を垂れるような厳粛さに満ちている。同じ作品を長年に亘って繰り返し演奏し続ける意義について彼女はインタビューでこう語る。「聴衆からの期待、より良い演奏をと考えるとハードルは高くなるが、チャレンジする喜びもある。新しい視点から発見した演奏解釈は、ただ蓄積していくのではなく、以前に構築してきたものとの関連がなければならない。前回の解釈からより一層進化した、更なる内面性への"究極の"意味づけというのを探究していきたい。」(執筆者訊)

ジョージア出身のバティアシヴィリは、16歳でシベリウス国際コンクールに入賞後、世界の主要なオーケストラとの共演を重ね、揺るぎない名声と人気を築き上げてきた。室内楽にも力を入れ、2023/24のシーズンはベルリン・フィルのアーティスト・イン・レジデンスを務めて数々のプロジェクトにも参加している。ヨーロッパ・コンサート2024では、母国ジョージアのツィナンダリにて、この国で初客演のベルリン・フィルとの共演を実現させて大きな話題を呼んだ。19世紀の貴族であり詩人のアレクサンドル・チャフチャヴアゼ (Alexander Chavchavadze) が所有していた大邸宅の広間で、5月の眩しい新緑の中に鳴り響くブラームスのヴァイオリン協奏曲。この記念すべきステージは、彼女の音楽人生の中でもとりわけ重要な意味を持つものになったであろう。

ハーンは自身の練習風景を撮影したYouTubeにて彼女の演奏技術と音楽作り的一端を見せている。またバティアシヴィリはジョージアで財団を設立、母国の若手音楽家の育成とキャリアアップを支援している。長い歳月の中で培ってきた経験や人脈、受けた恩恵を、若い世代に還元していきたいという考えに共感を覚える。

ハーンの演奏：『Hilary Hahn Plays Bach』 請求番号●XD79296 / ハーンとバティアシヴィリの演奏・インタビュー：ベルリン・フィル デジタル・コンサートホールより視聴可

資料の部屋 ⑰ 児童書、あなどるなかれ!

山田ひより

皆さんは子供の頃、どんな本が好きでしたか?

夜寝る前に読んでもらった本、何度も繰り返し読んだお気に入りの本…人それぞれにいろんな本の思い出があるかと思います。

私は子供の頃から「伝記」が好きでした。歴史に残るほどの功績を残した人物が、どんなふう生まれ育ち、その生涯を閉じたのかとても興味深く、たくさん伝記を読みました。伝記に登場する偉人たちは皆、初めから才能を持って生まれたかのように見えますが、輝かしい功績の裏には必ずたくさん努力が隠れています。そんな偉人たちのひたむきな姿勢にいつしか自分の気持ちも前向きになり、何度も励まされました。

さて、今回私が紹介するのは「母と子の音楽図書館」というシリーズです。このシリーズは1巻ごとに一人の作曲家の人生を物語にした児童書です。「え、児童書?」と思われる方もいらっしゃるでしょうか。

児童書といえば子供向けの簡単な本に思われがちですが、実はあなどれません。実際に図書館のレファレンスサービス(利用者の調べ物をサポートするサービス)で、専門書ではどうしても見つからなかった情報が児童書に載っていて問題解決の糸口になった、なんて事例もあるのです。

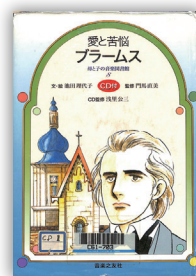
このシリーズも子供にわかりやすい文章でありつつ、大人向けの伝記に負けない読み応えがあります。エピソードも豊富で、当館の企画展示を担当している私にとっても大変役立つ情報源の一つとなっています。

ちなみに、このシリーズは絵と文を書く人が毎回変わります。やなせたかしさんが描いた「アンパンマン風」バッハや池田理代子さんが描いた「ベルばら風」ブラームスなど…

また、旧シリーズ「ジュニア音楽図書館 作曲家シリーズ」では、「銀河鉄道999」の松本零士さんがワーグナーを描いています。現シリーズにはない作曲家も取り上げられていますので、ぜひそちらも合わせて読んでみてください。



『音楽の父バッハ』
やなせたかし文・絵
音楽之友社 1996
(母と子の音楽図書館 ; 1).
請求番号●C61-591



『愛と苦悩ブラームス』
池田理代子文・絵
音楽之友社 1997
(母と子の音楽図書館 ; 8).
請求番号●C61-703

やまだ ひより(図書館嘱託職員) ● 平日は図書館で働き、土日も近所の図書館へ行っていたら父に心配されました。娘はいたって健康です。